

2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
 - (5) 大規模災害時の避難生活場所
-

2 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■【備蓄・買い置きあり】は前回調査から3.5ポイント減少するも7割台半ば近く

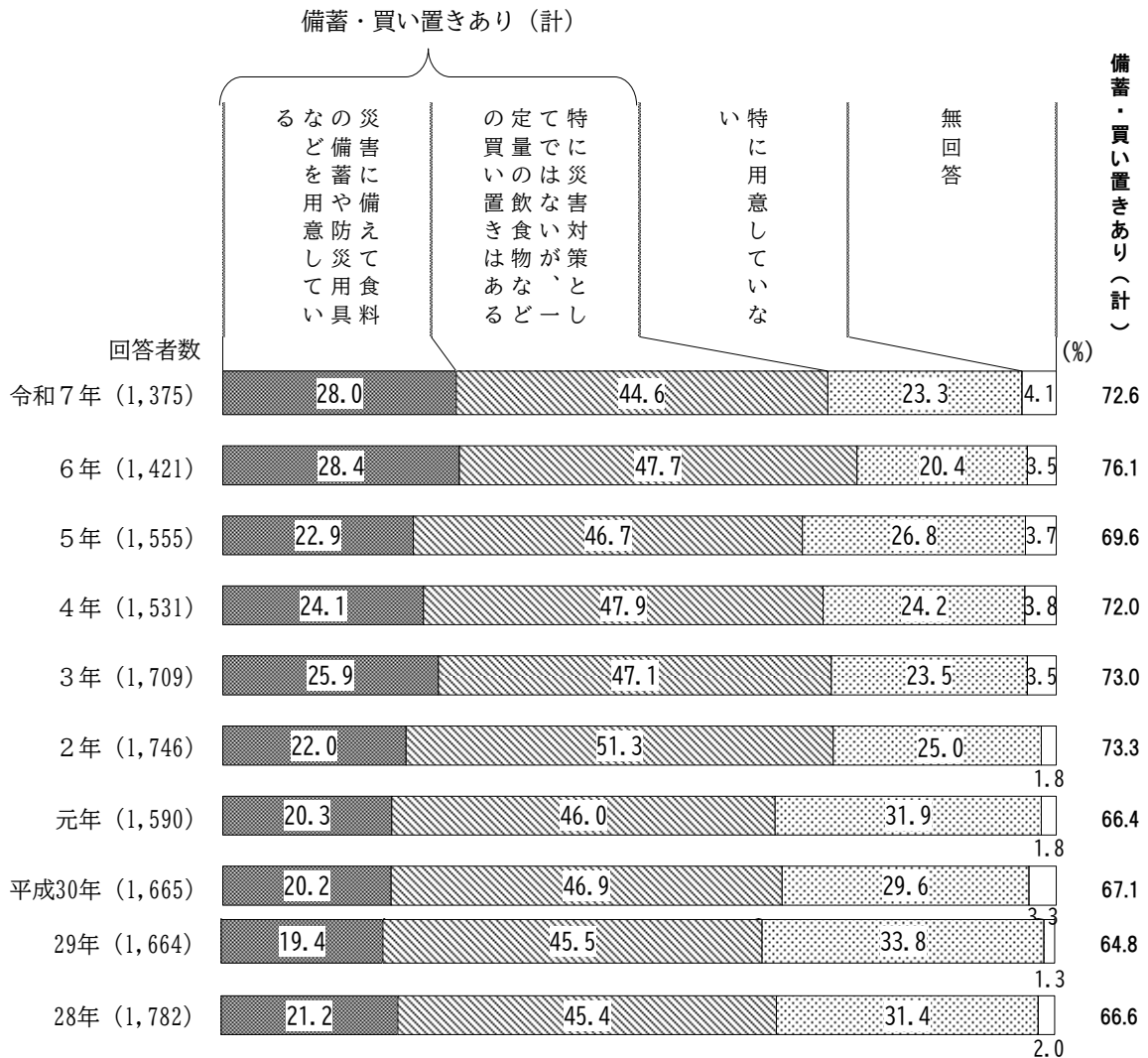
ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が44.6%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.0%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は72.6%となっている。

(イ) 災害に備えて「特に用意していない」は23.3%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査（76.1%）から3.5ポイント減少しており、「特に用意していない」は前回調査（20.4%）から2.9ポイント増加している。

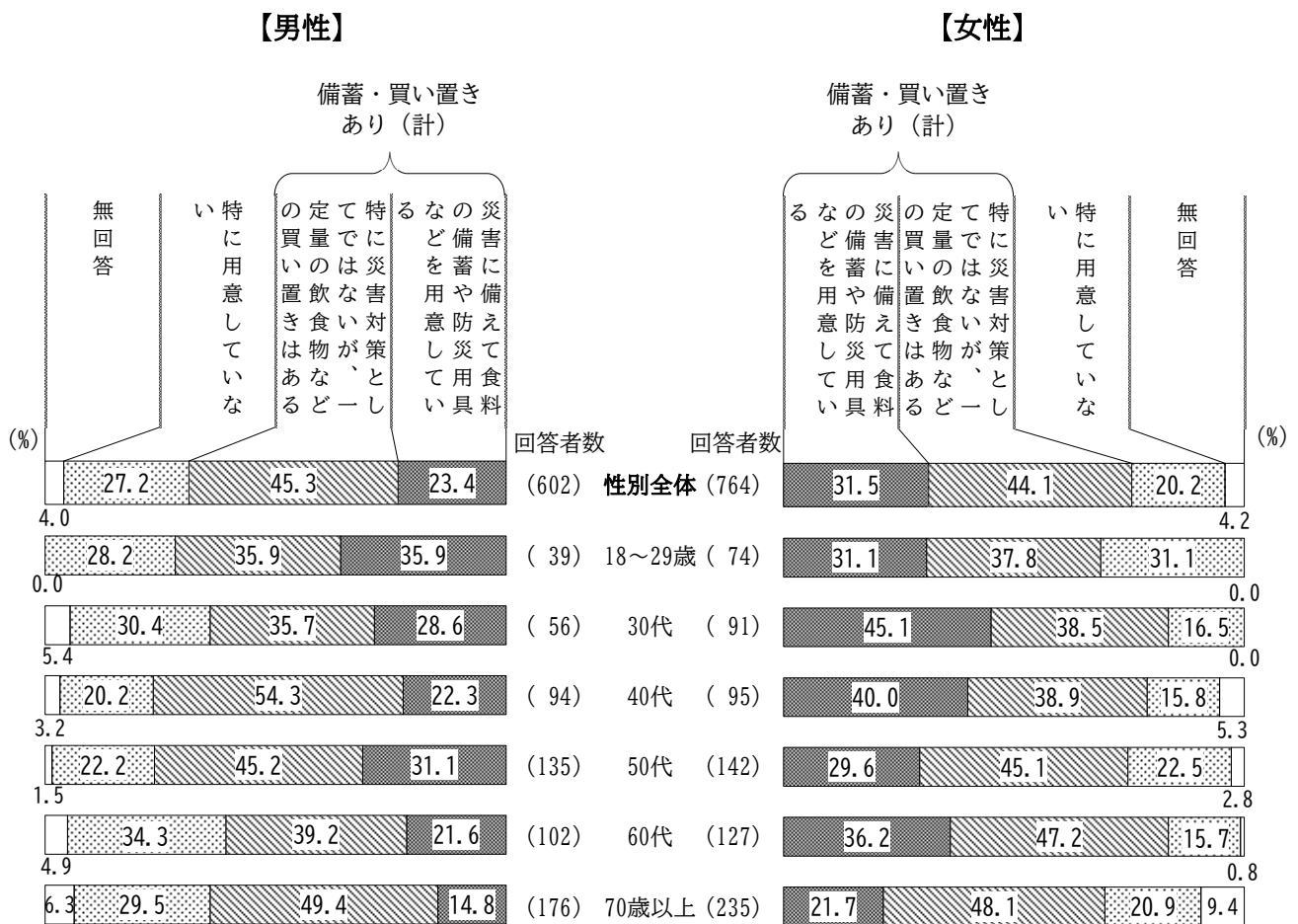
図2-1-1-① 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は女性（75.7%）の方が男性（68.8%）より6.9ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の30代（45.1%）、40代（40.0%）で4割台と高くなっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の30代と60代がともに83.5%で最も高くなっている。
- (ウ) 「特に用意していない」を性・年代別で見ると、男性の60代（34.3%）と30代（30.4%）、女性の18～29歳（31.1%）で3割台と高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

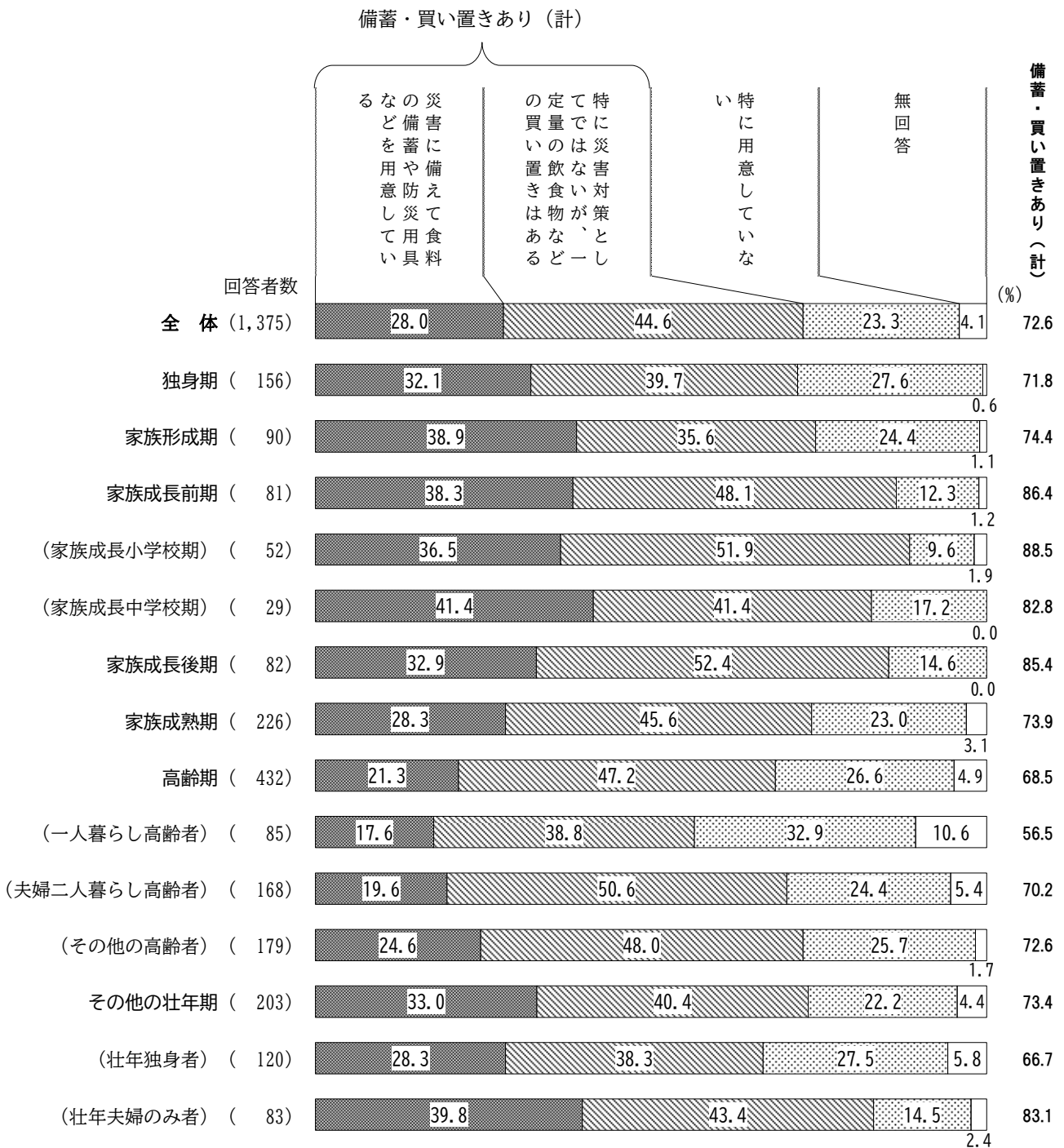


ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長前期〉が86.4%で最も高く、次いで〈家族成長後期〉(85.4%)となっており、〈高齢期〉が68.5%で最も低くなっている。

詳細区分でみると、〈(家族成長小学校期)〉が88.5%で最も高く、〈(一人暮らし高齢者)〉が56.5%で最も低くなっている。

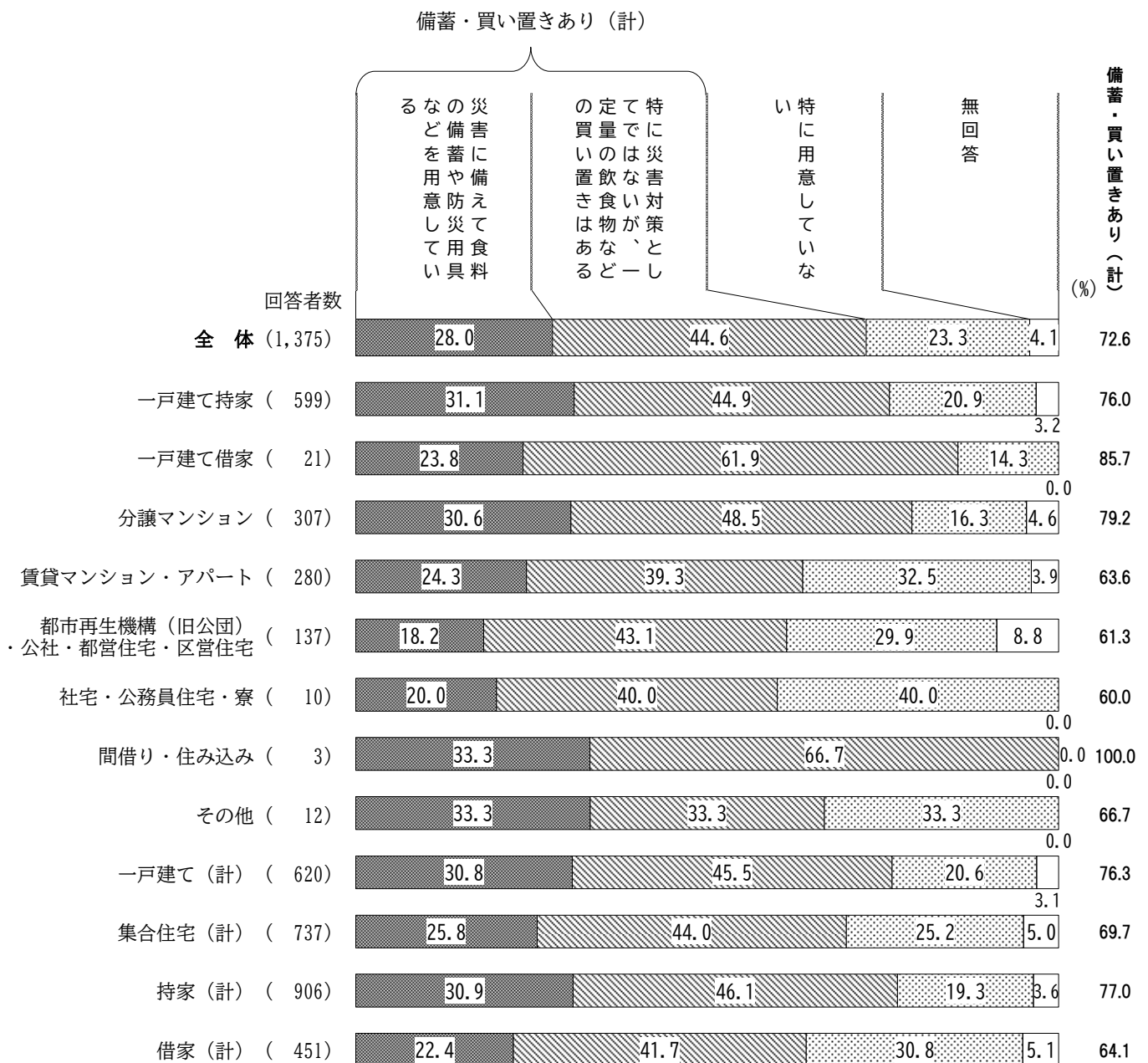
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 住居形態別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が79.2%で最も高く、次いで〈一戸建て持家〉(76.0%)となっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が32.5%で最も高くなっている。
- (イ) 住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て(計)〉(76.3%)の方が〈集合住宅(計)〉(69.7%)より6.6ポイント高くなっている。
- (ウ) 住宅の所有形態別では、〈持家(計)〉(77.0%)の方が〈借家(計)〉(64.1%)より12.9ポイント高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

(○はあてはまるものすべて)。

■ 1位「水」(9割台半ば近く)、2位「食料」(8割台半ば超)、3位「あかり」(7割台半ば近く)で前回調査と順位に変更なし

ア 単純集計・経年比較/備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

(ア)【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ①「水」(92.4%)
- ②「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」(87.5%)
- ③「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」(72.2%)
- ④「簡易トイレ」(58.5%)
- ⑤「電池・予備バッテリー」(56.2%)

(イ) 令和3年度調査以降、「水」「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」「あかり(ろうそく、懐中電灯など)」の上位3項目の順位に変更はない。

(ウ) 前回調査と比較すると、「情報収集手段(携帯ラジオなど)」(44.4%→47.5%)が3.1ポイント増加している。

図2-2-1-① 経年比較/備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

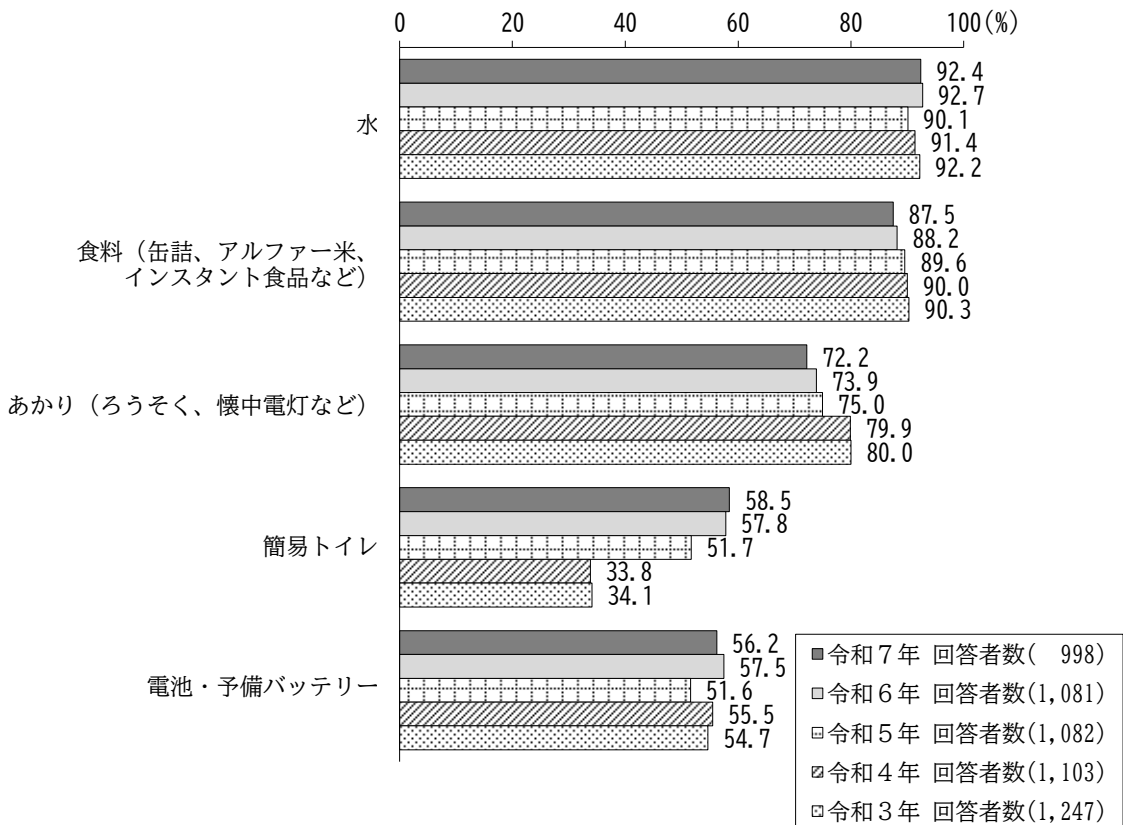


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

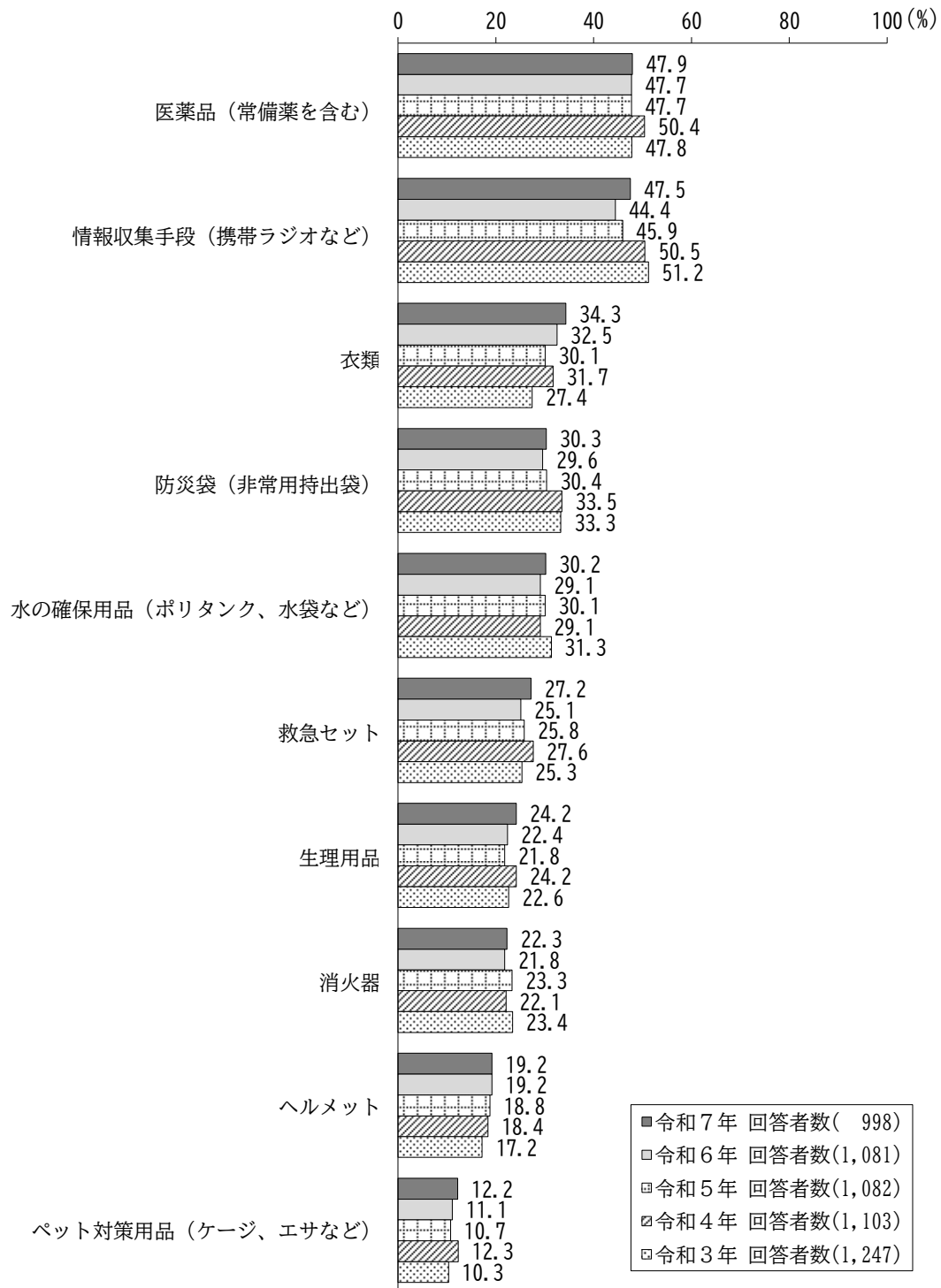
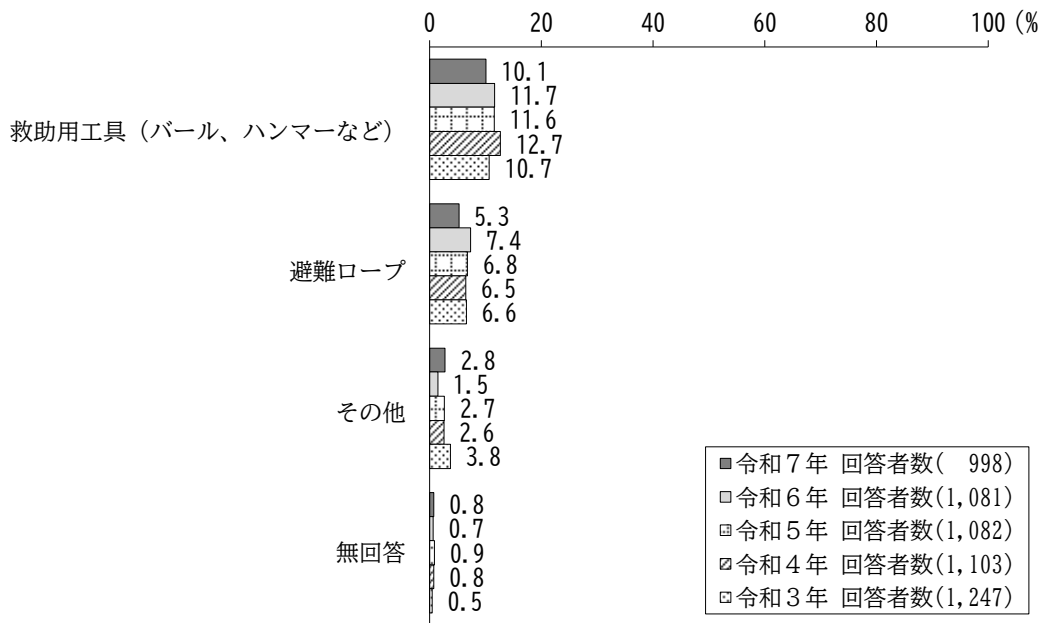


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



第3章 調査結果の分析〈大震災などの災害への備え〉

イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

(ア) 性別にみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い項目

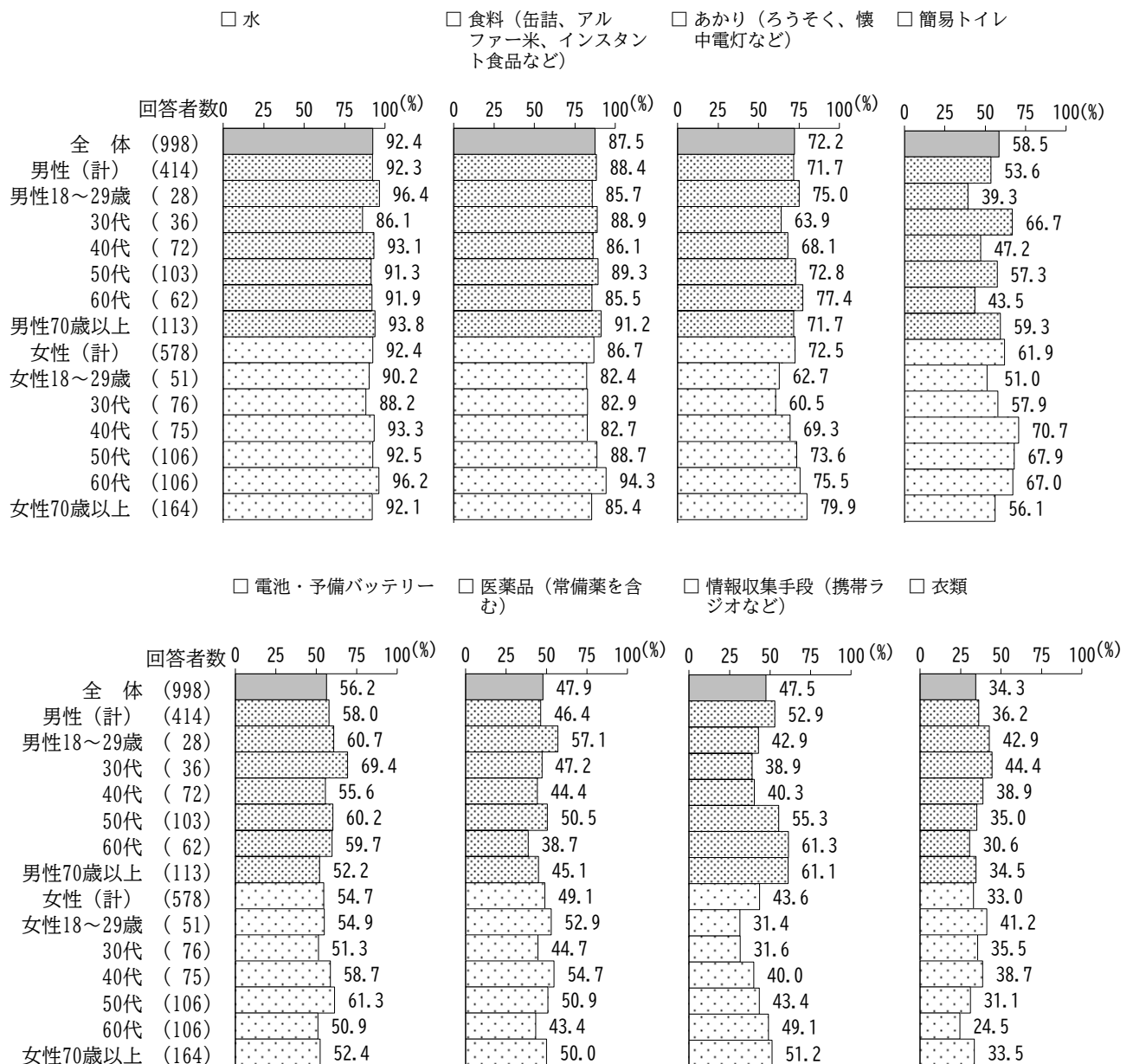
- ・「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（+9.3ポイント）
- ・「電池・予備バッテリー」（+3.3ポイント）
- ・「衣類」（+3.2ポイント）

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い項目

- ・「簡易トイレ」（+8.3ポイント）

(イ) 性・年代別で見ると、「水」は男性の18～29歳（96.4%）、「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は女性の60代（94.3%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の70歳以上（79.9%）で最も高くなっている。また、「簡易トイレ」は女性の40代（70.7%）が最も高く、男性の18～29歳（39.3%）で最も低く、その差は30ポイント以上開いている。

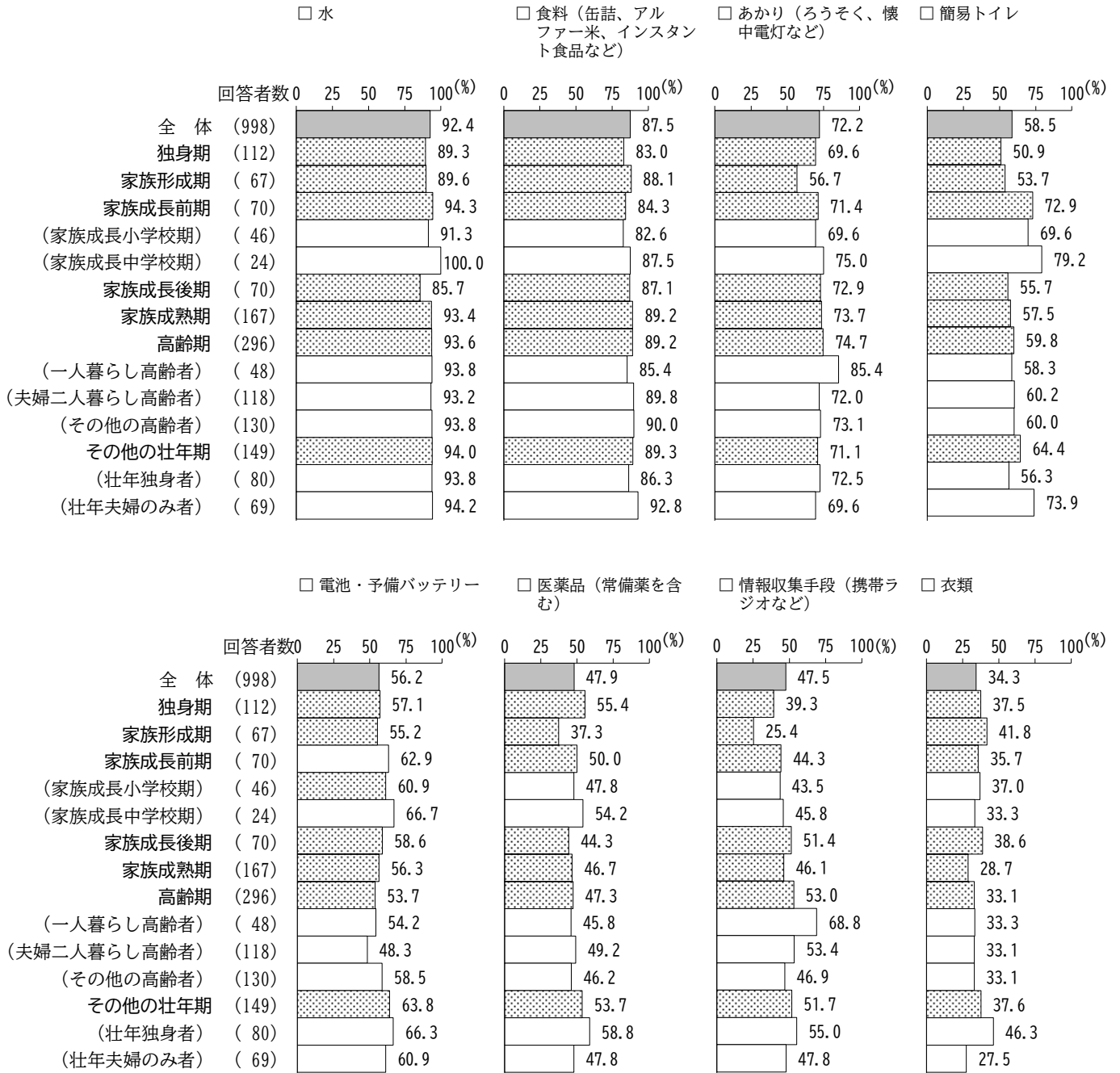
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」は〈家族成長前期〉（94.3%）、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は〈その他の壮年期〉（89.3%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は〈高齢期〉（74.7%）、「簡易トイレ」は〈家族成長前期〉（72.9%）でそれぞれ最も高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

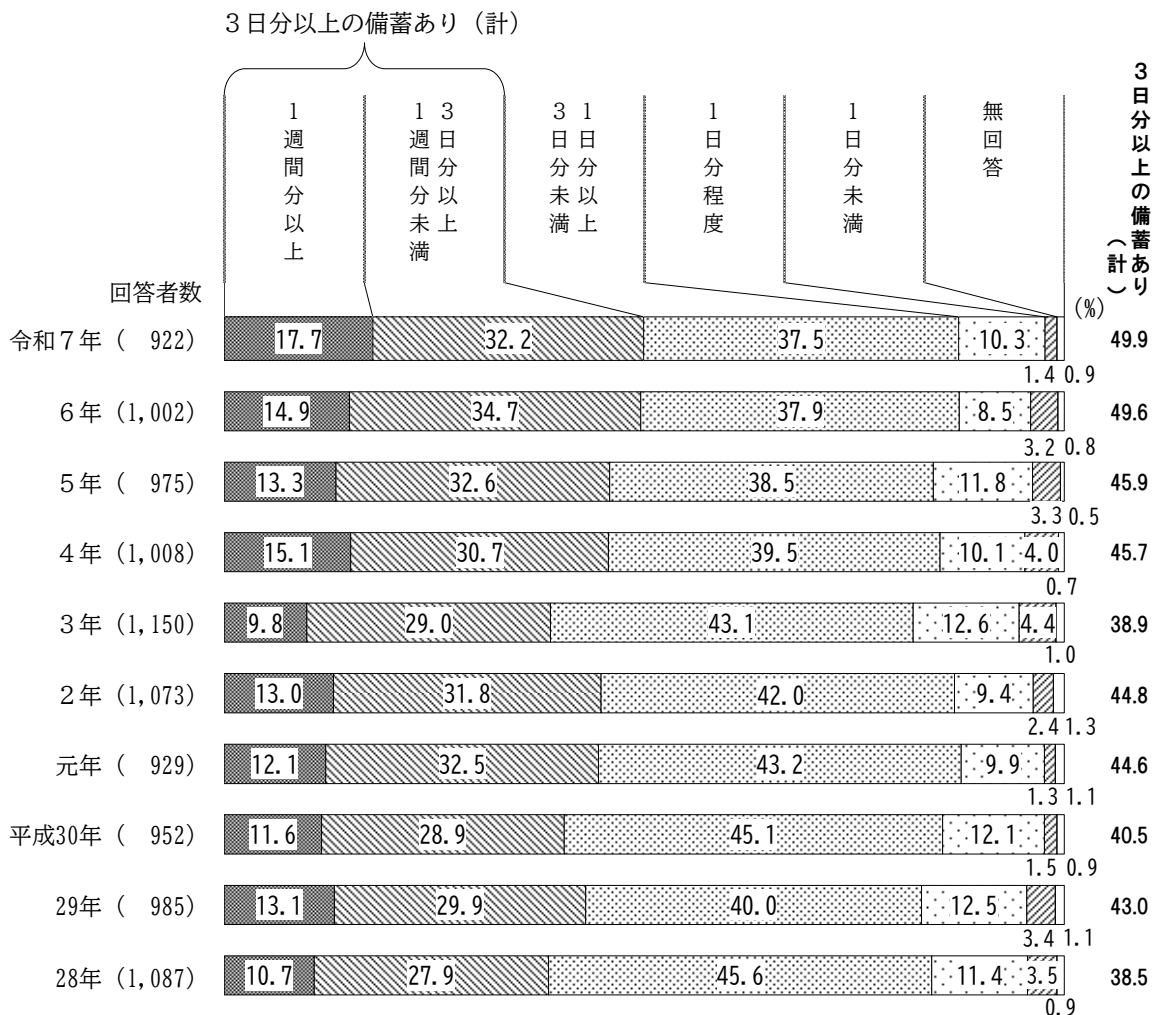
■【3日分以上の備蓄あり】は「水」が約5割、「食料」が4割台半ば、「簡易トイレ」が4割超

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

(ア)「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が37.5%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(32.2%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(17.7%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は49.9%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、過去10年間で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水

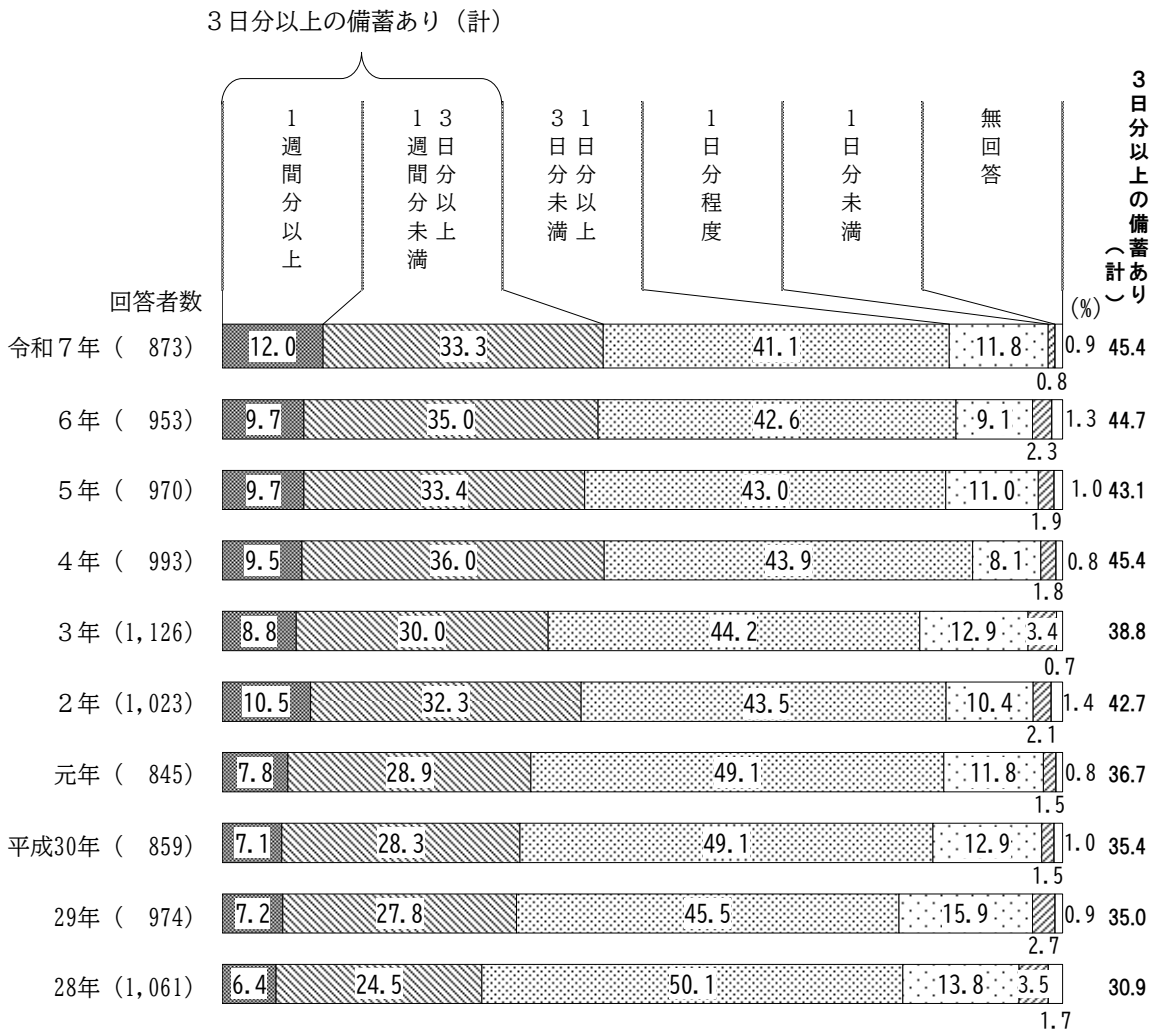


イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

(ア)「食料(缶詰、アルファ米、インスタント食品など)」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が41.1%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(33.3%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(12.0%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は45.4%となっている。

(イ)前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、令和4年度調査(45.4%)と並んで最も高い割合となった。

図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料

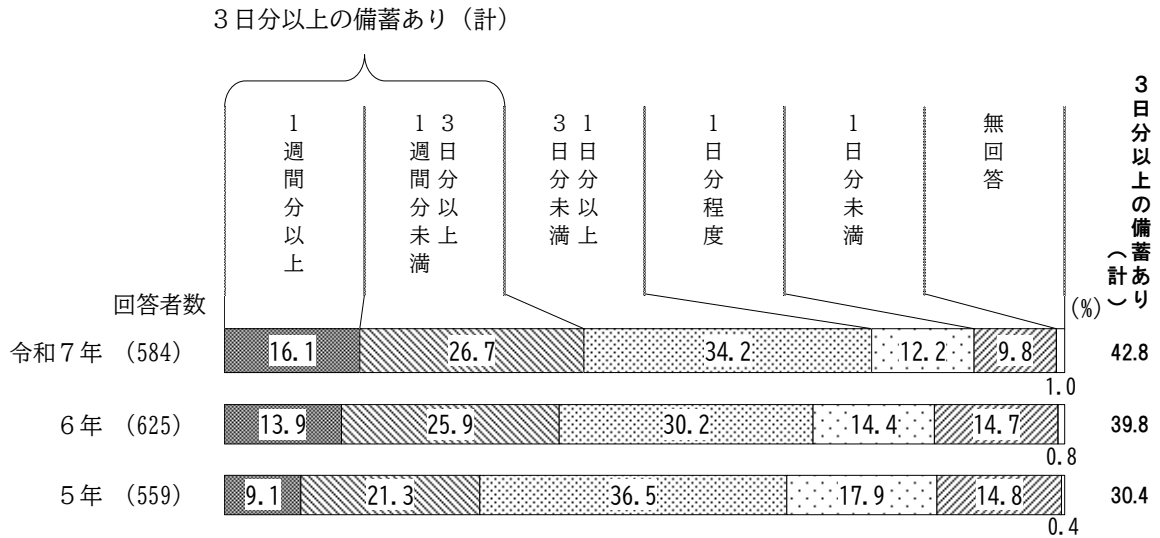


ウ 単純集計・経年比較／備蓄量／簡易トイレ

(ア)「簡易トイレ」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が34.2%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(26.7%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(16.1%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は42.8%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】(前回39.8%)は3.0ポイントの増加となっている。

図2-3-1-③ 経年比較／備蓄量／簡易トイレ

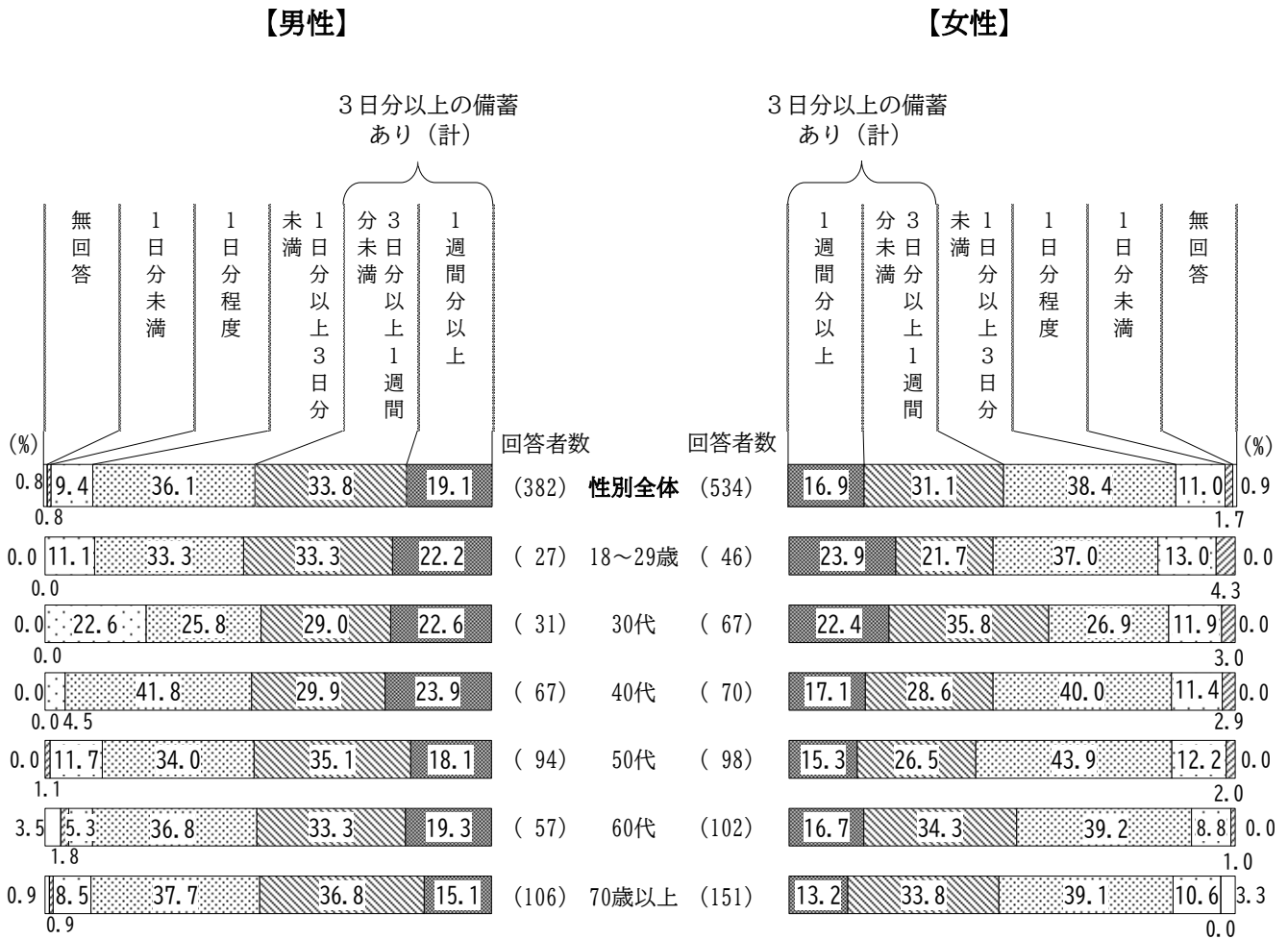


エ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

(ア)「水」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（52.9%）の方が女性（47.9%）より5.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の30代が58.2%で最も高く、次いで男性の18～29歳（55.6%）となっている。逆に、女性の50代（41.8%）が最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の18～29歳が4.3%で最も高くなっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

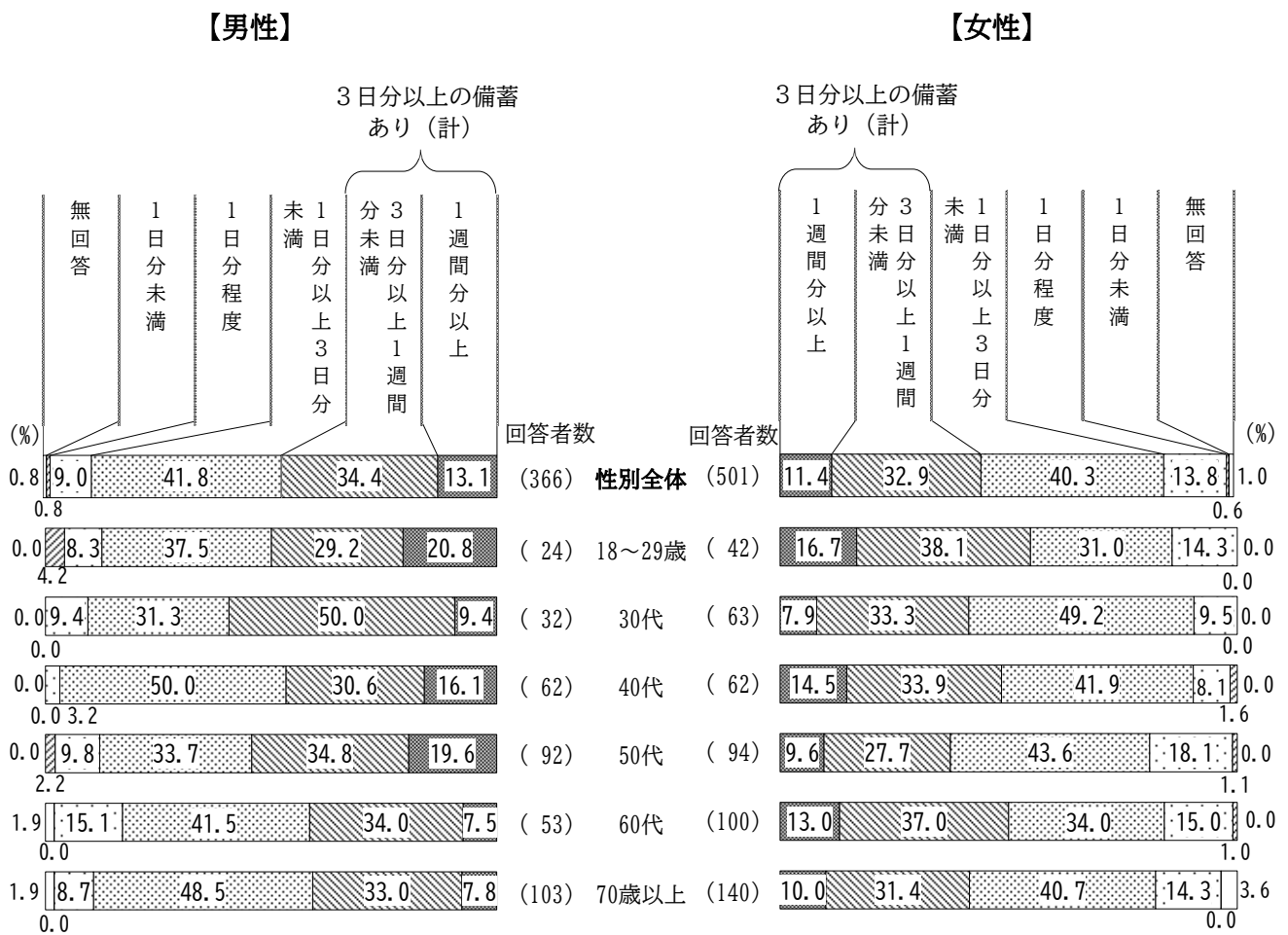


オ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

(ア)「食料」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性(47.5%)の方が女性(44.3%)より3.2ポイント高くなっている。

(イ)性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が59.4%で最も高く、次いで女性の18~29歳(54.8%)、男性の50代(54.3%)が5割台半ばで続いている。逆に、女性の50代が37.2%と最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の18~29歳が4.2%で最も高くなっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料

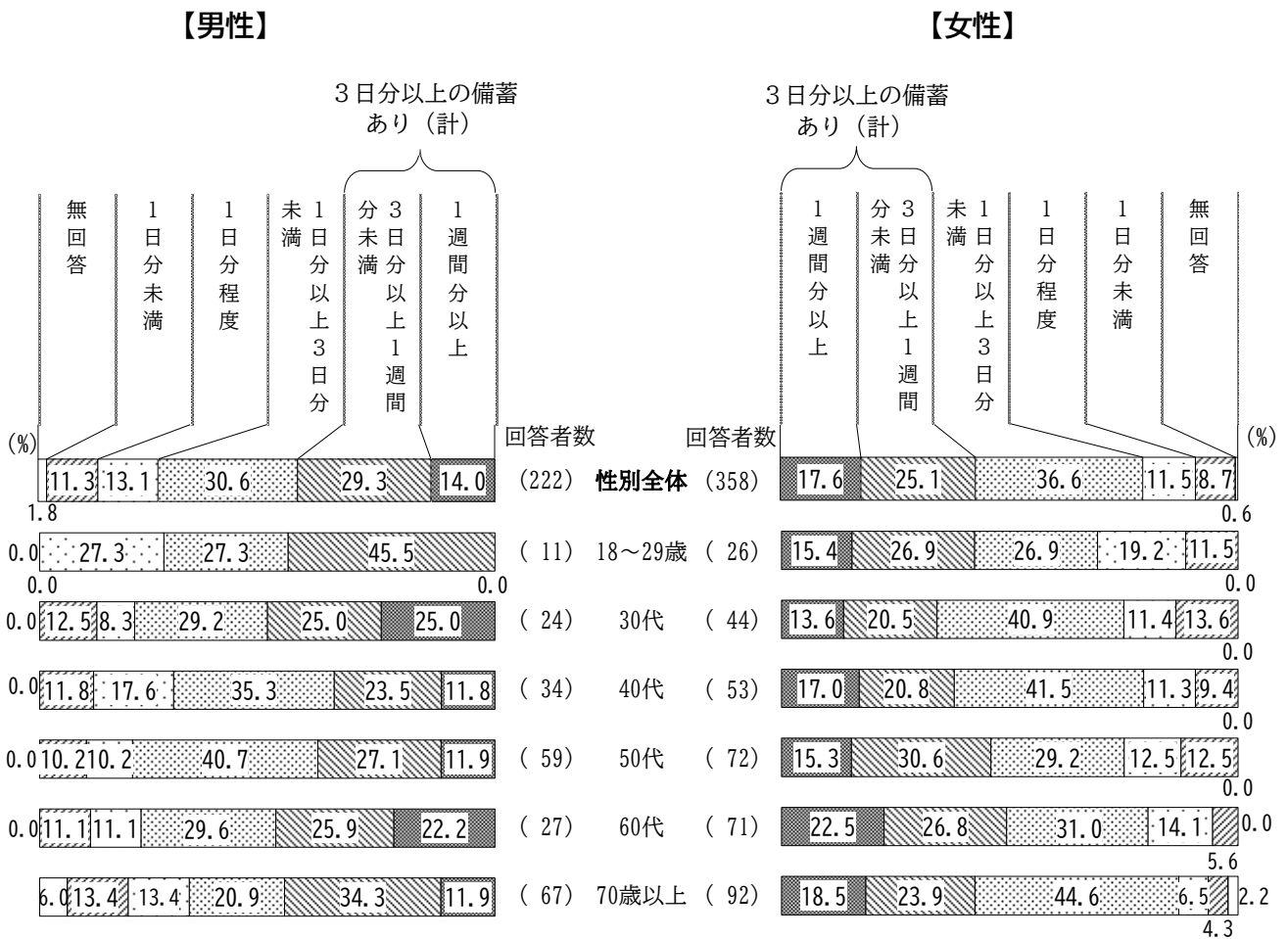


カ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

(ア) 「簡易トイレ」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（43.2%）と女性（42.7%）では大きな違いはみられない。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代は50.0%で最も高く、次いで女性の60代（49.3%）となっている。逆に、女性の30代（34.1%）と男性の40代（35.3%）が3割台半ばで低くなっている。また、「1日分未満」は女性の30代が13.6%で最も高くなっている。

図2-3-2-③ 性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

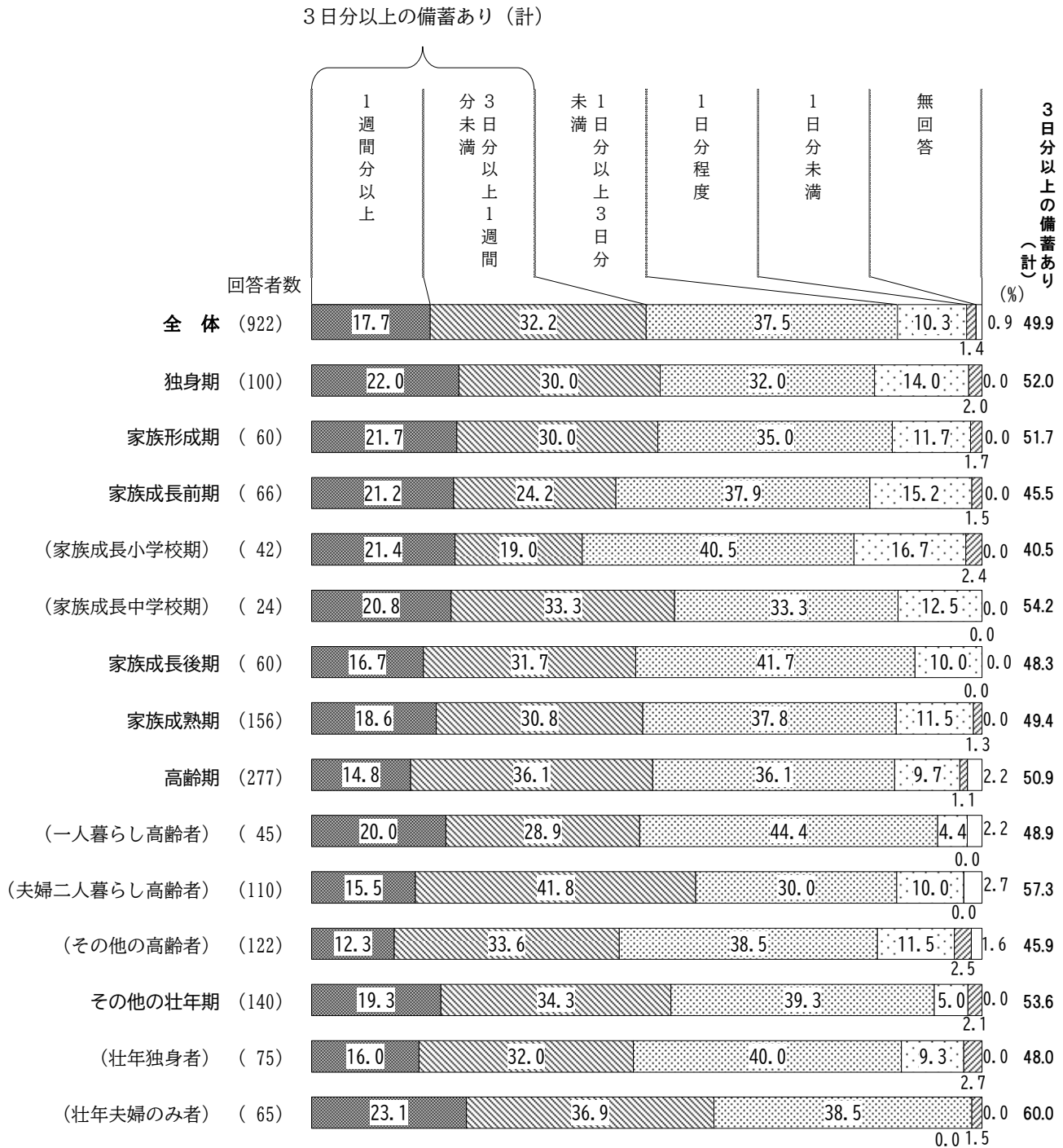


キ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が53.5%で最も高く、〈家族成長前期〉が45.5%で最も低くなっている。

詳細区分で見ると、〈(壮年夫婦のみ者)〉が60.0%で最も高くなっている。逆に〈(家族成長小学校期)〉が40.5%で最も低くなっている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水

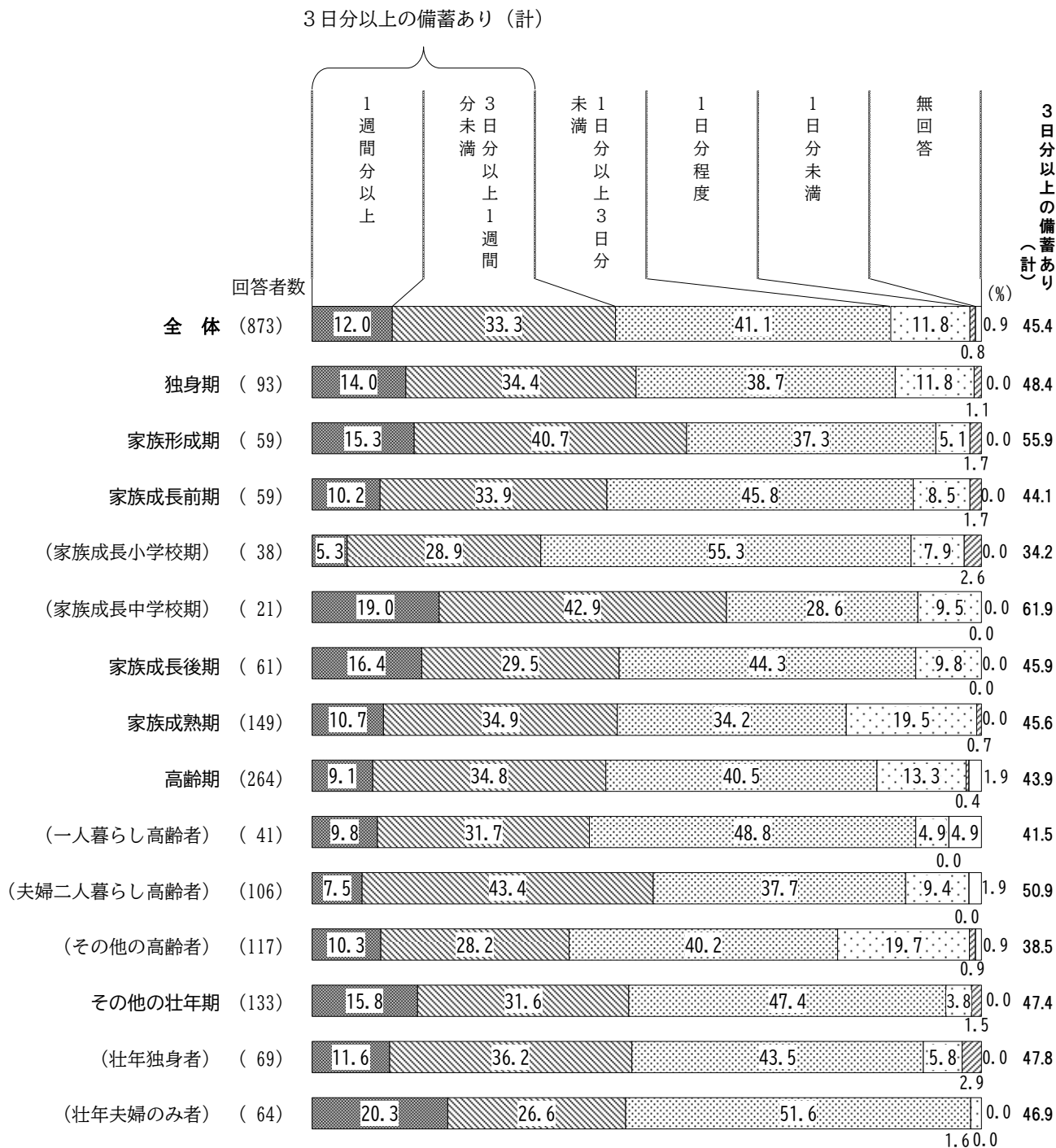


ク クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族形成期〉が55.9%で最も高く、〈高齢期〉が43.9%で最も低くなっている。

詳細区分で見ると、回答数が少ないものの〈(家族成長中学校期)〉(61.9%)で6割台と最も高く、〈(家族成長小学校期)〉(34.2%)が3割台半ばと最も低くなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料

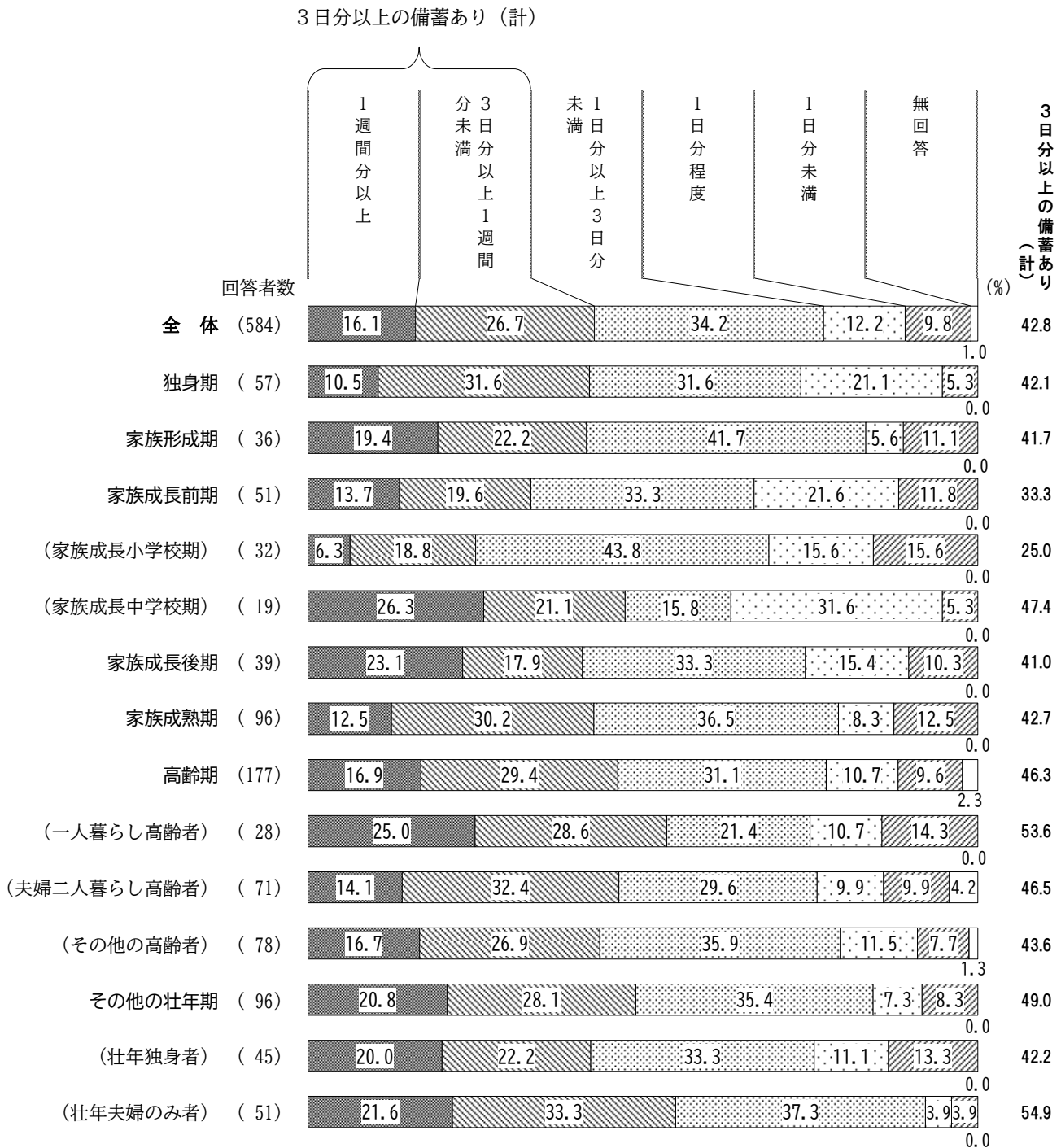


ケ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が49.0%で最も高く、〈家族成長前期〉が33.3%で最も低くなっている。

詳細区分で見ると、〈(壮年夫婦のみ者)〉(54.9%)で5割台半ばと最も高く、〈(家族成長小学校期)〉(25.0%)で2割台半ばと最も低くなっている。

図2-3-3-③ ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ



(4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問5 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つずつ）。

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.7%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（17.3%）

ア【一時集合場所】とは、大地震など、災害が発生した場合に、避難場所（区内に32カ所）や避難所（区内の小・中学校や福祉施設）に集団で避難するために、町会・自治会単位で一時的に集まる場所です。

イ【避難場所】とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所です。

ウ【第一次避難所】とは、自宅が倒壊・焼失等で生活が出来ない場合、生活する場所です。第一次避難所は、区立の小中学校、都立高校などが指定されており、災害発生時には、避難所近隣の町会・自治会を中心とした避難所運営本部により開設されます。

ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

- (ア) 地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」(35.2%)、「ウ 第一次避難所」(24.3%)の順となっている。
- (イ) 地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合も、「イ 避難場所」が25.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」(22.5%)、「ウ 第一次避難所」(17.3%)の順となっている。
- (ウ) いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「ア 一時集合場所」(12.7ポイント)、「イ 避難場所」(11.0ポイント)、「ウ 第一次避難所」(7.0ポイント)となっている。
- (エ) 前回調査と比較すると、〈場所〉〈意味〉の大半で「知っている」の割合が微減しているものの、割合としては特に大きな違いではない。

図2-4-1-① 経年比較/地域の3種の避難場所とその意味の認知

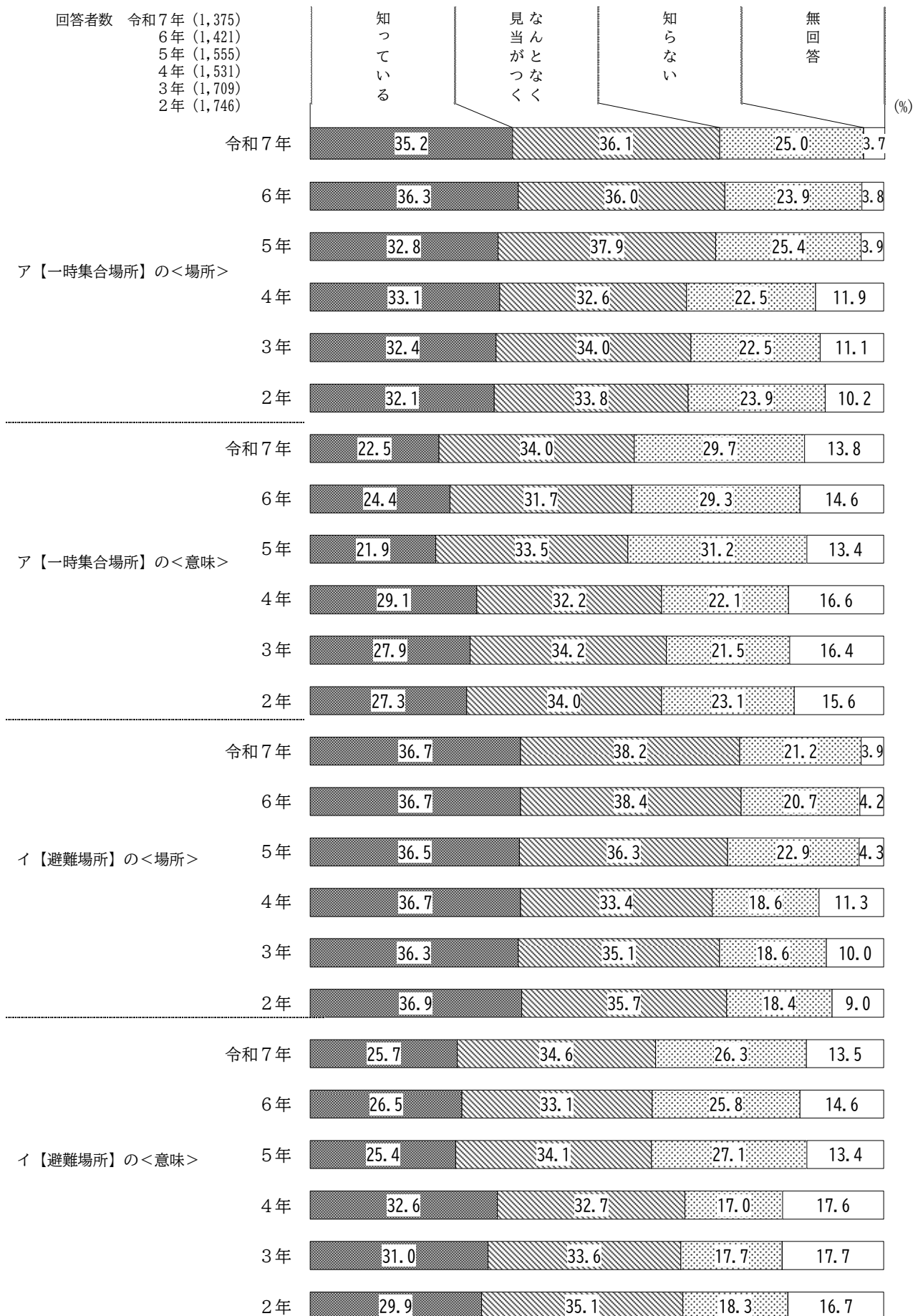
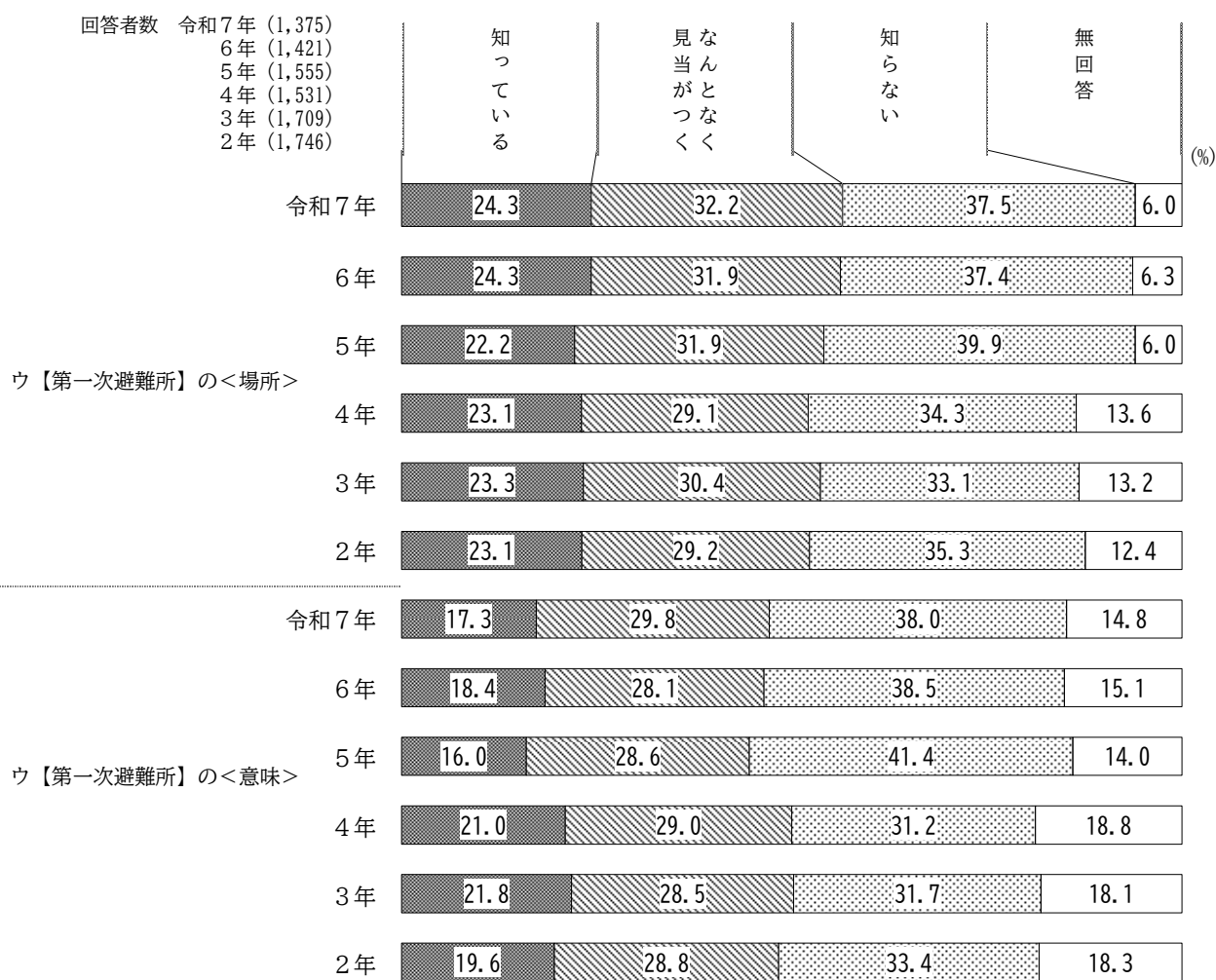


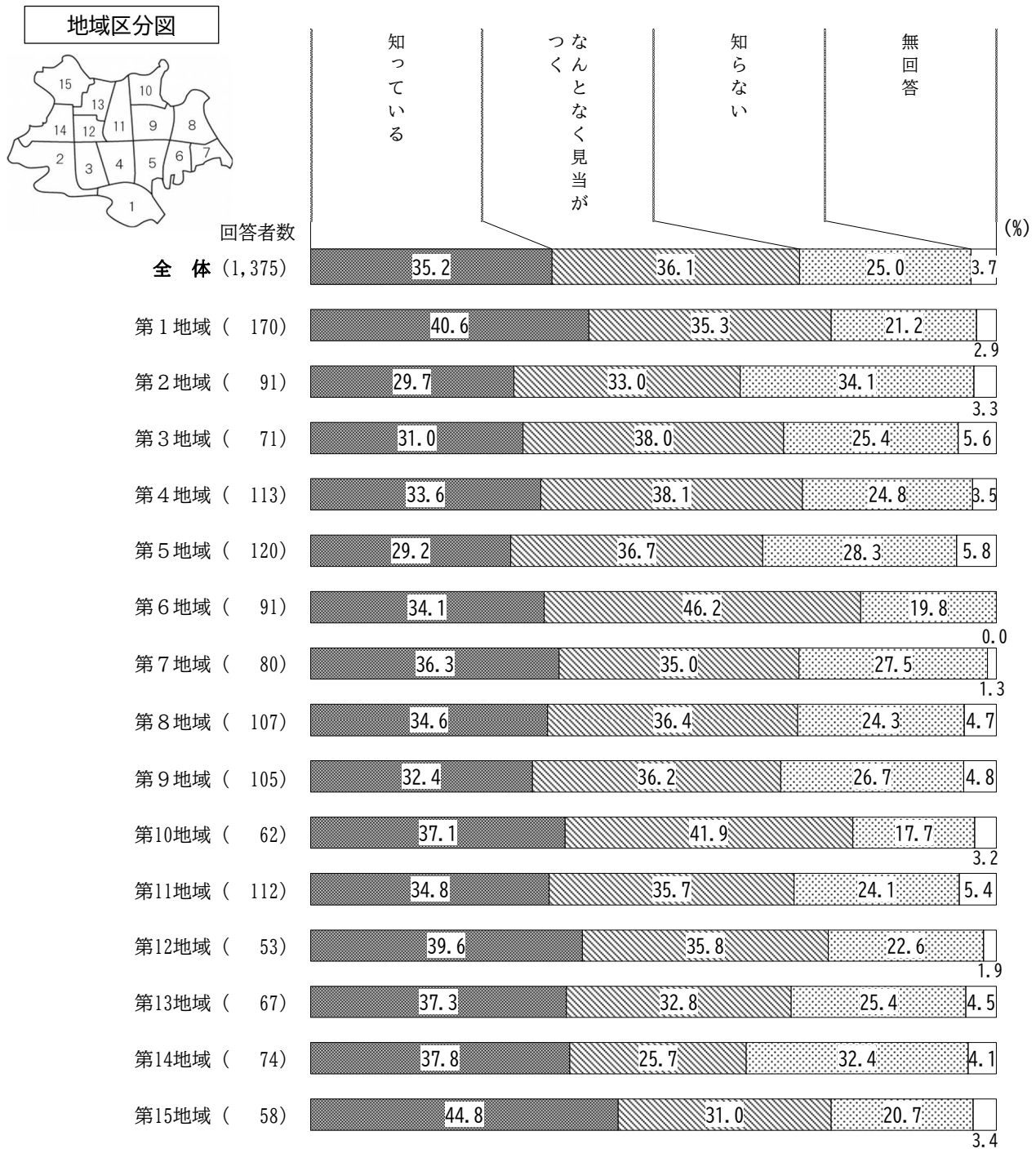
図2-4-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が44.8%で最も高く、次いで、第1地域（40.6%）となっている。一方、第5地域が29.2%で最も低く、次いで第2地域（29.7%）となっている。

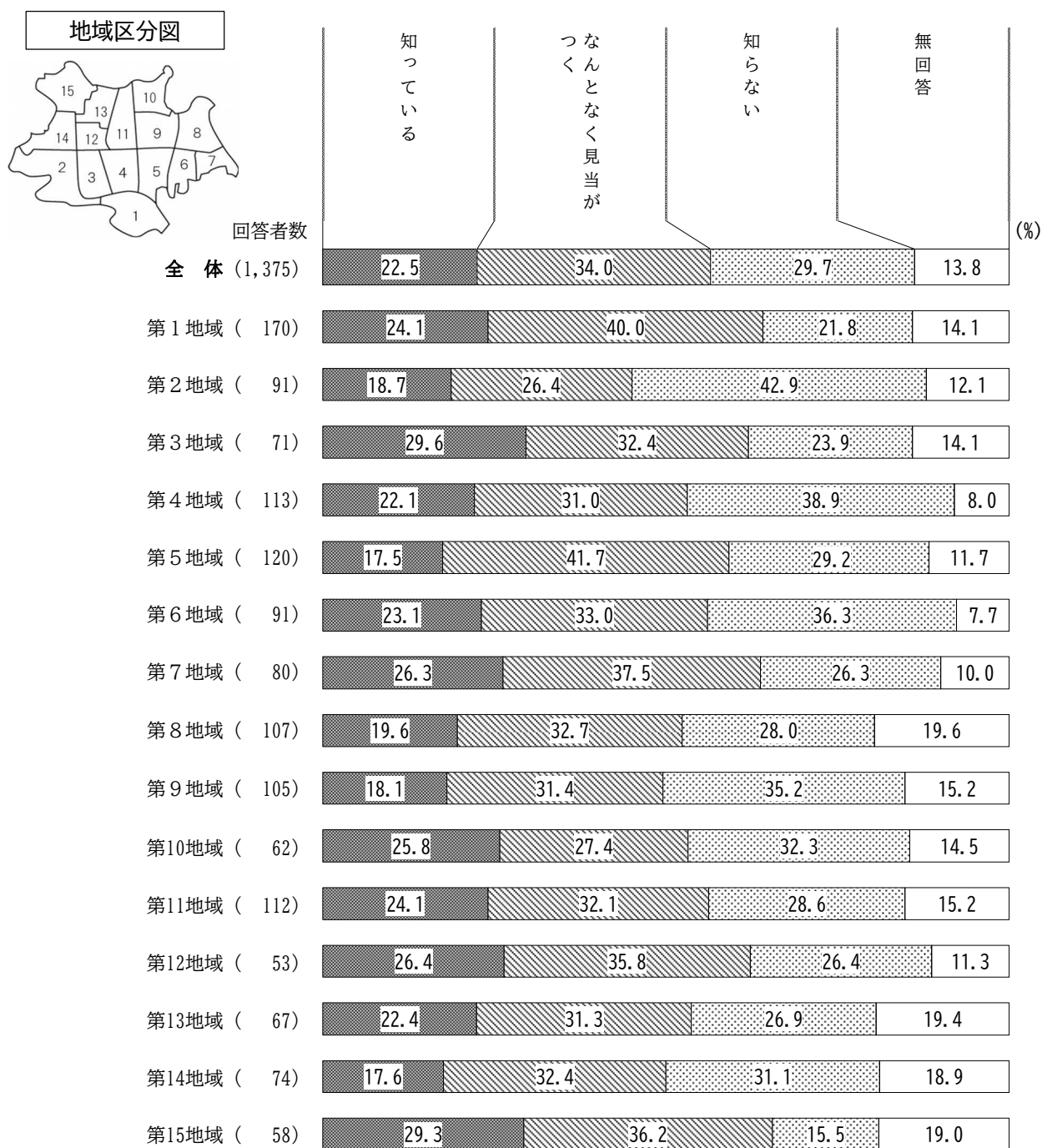
図2-4-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第3地域が29.6%で最も高く、次いで第15地域（29.3%）となっている。一方、第5地域が17.5%で最も低く、次いで第14地域（17.6%）となっている。

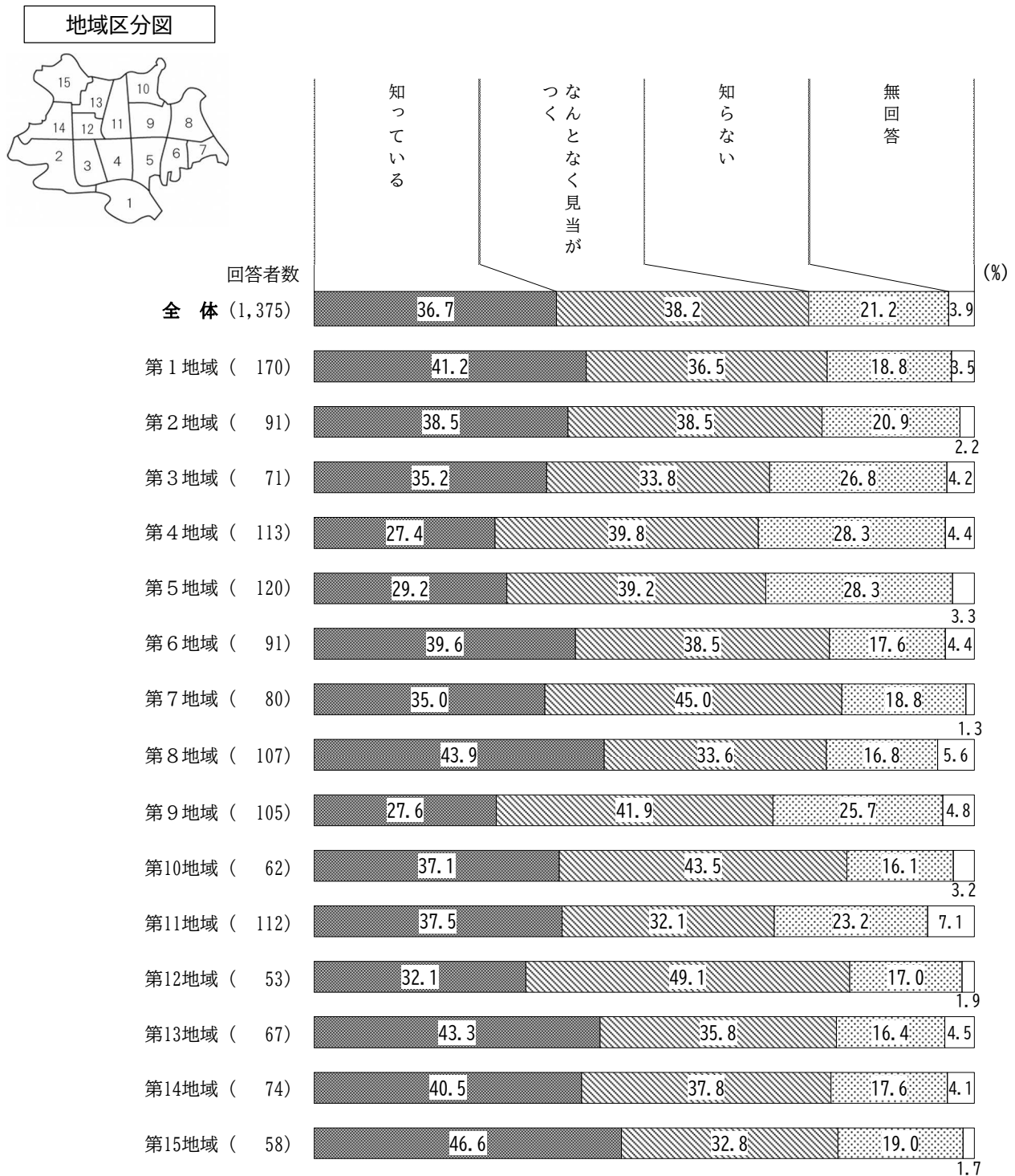
図2-4-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が46.6%で最も高く、次いで第8地域（43.9%）となっている。一方、第4地域が27.4%で最も低く、次いで第9地域（27.6%）となっている。

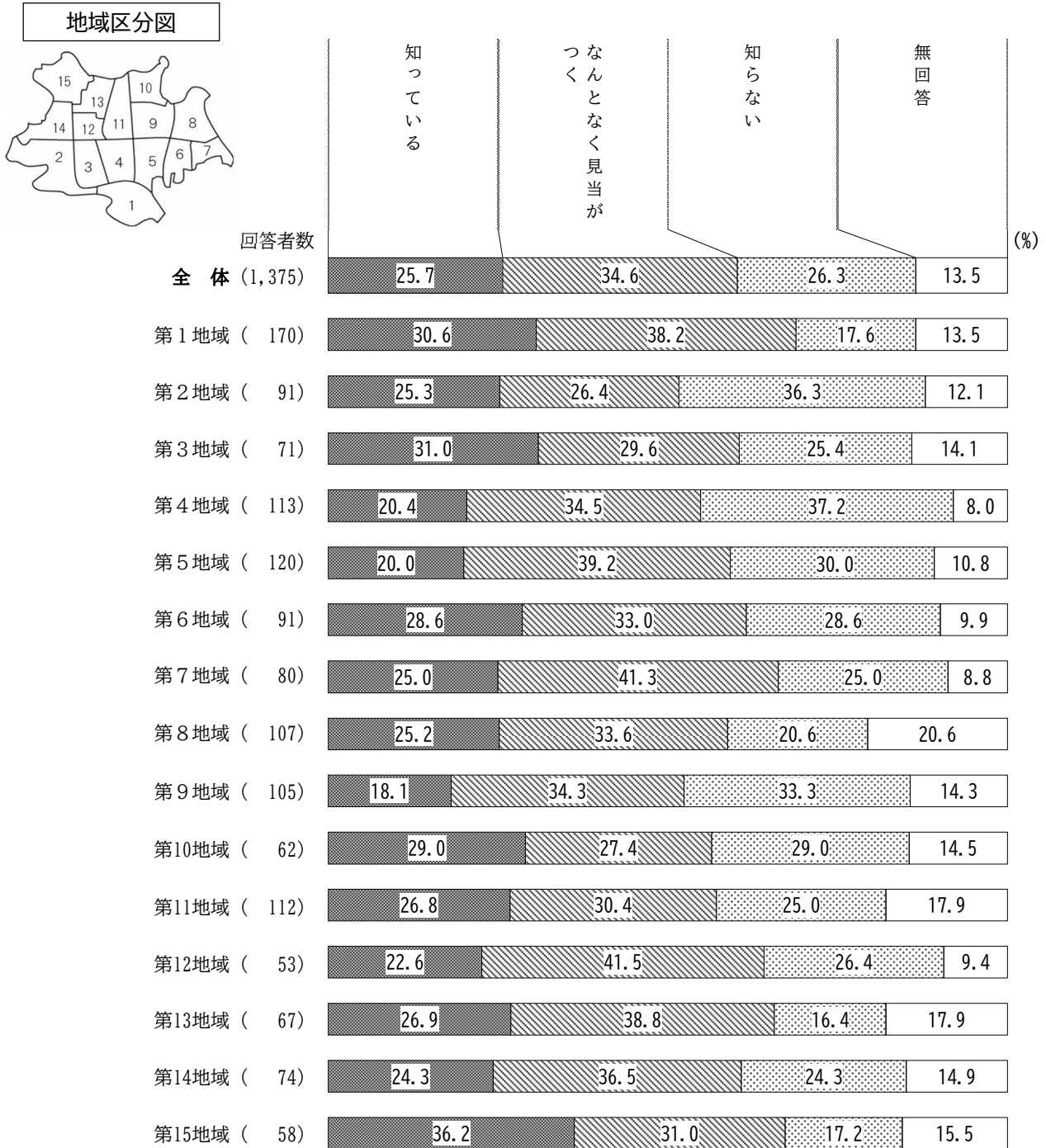
図2-4-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の<意味>」の認知

「イ【避難場所】の<意味>」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が36.2%で最も高く、次いで第3地域(31.0%)となっている。一方、第9地域が18.1%で最も低く、次いで第5地域(20.0%)となっている。

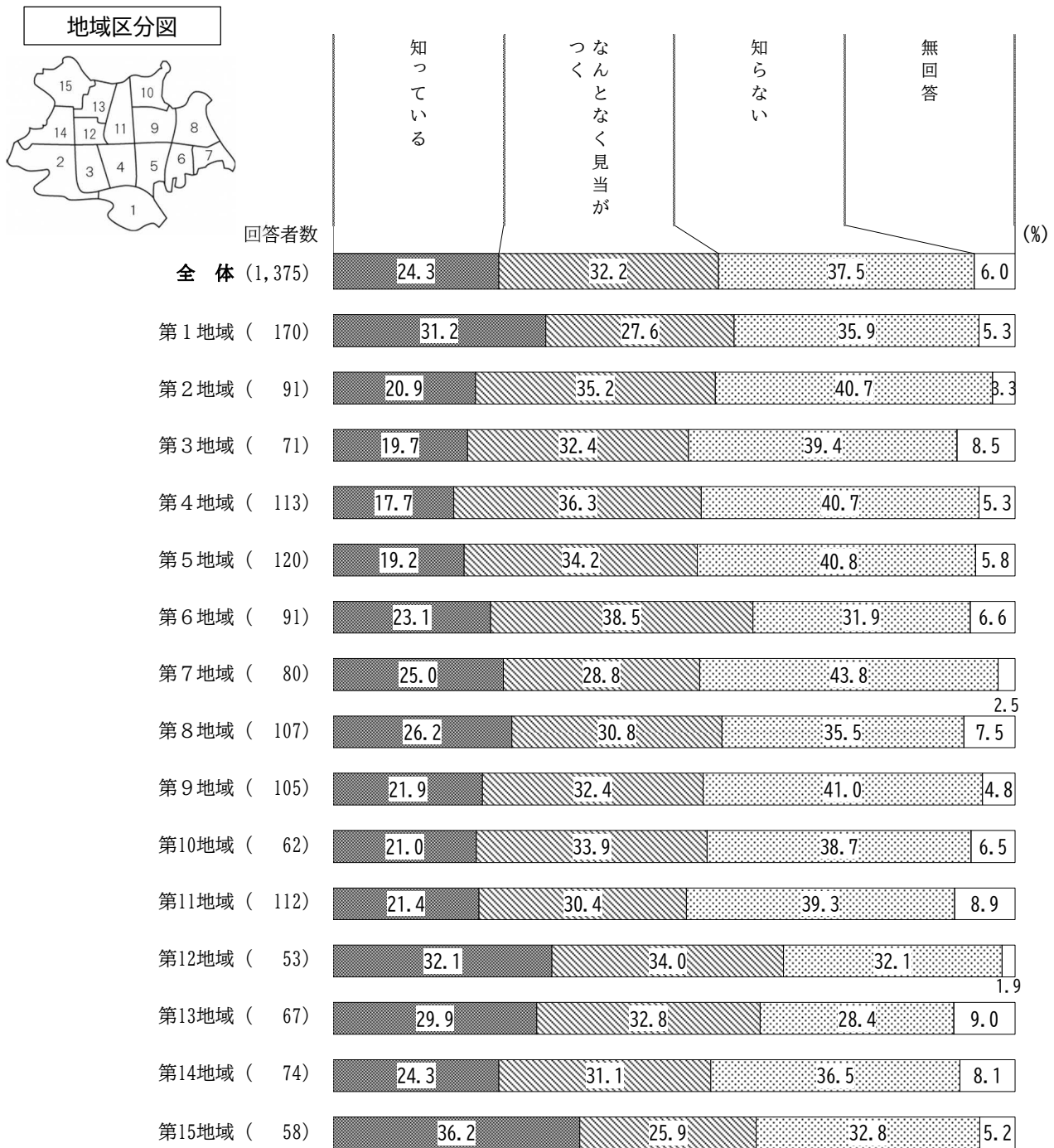
図2-4-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の<意味>」の認知



カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が36.2%と最も高く、次いで第12地域（32.1%）となっている。一方、第4地域が17.7%で最も低く、次いで第5地域（19.2%）となっている。

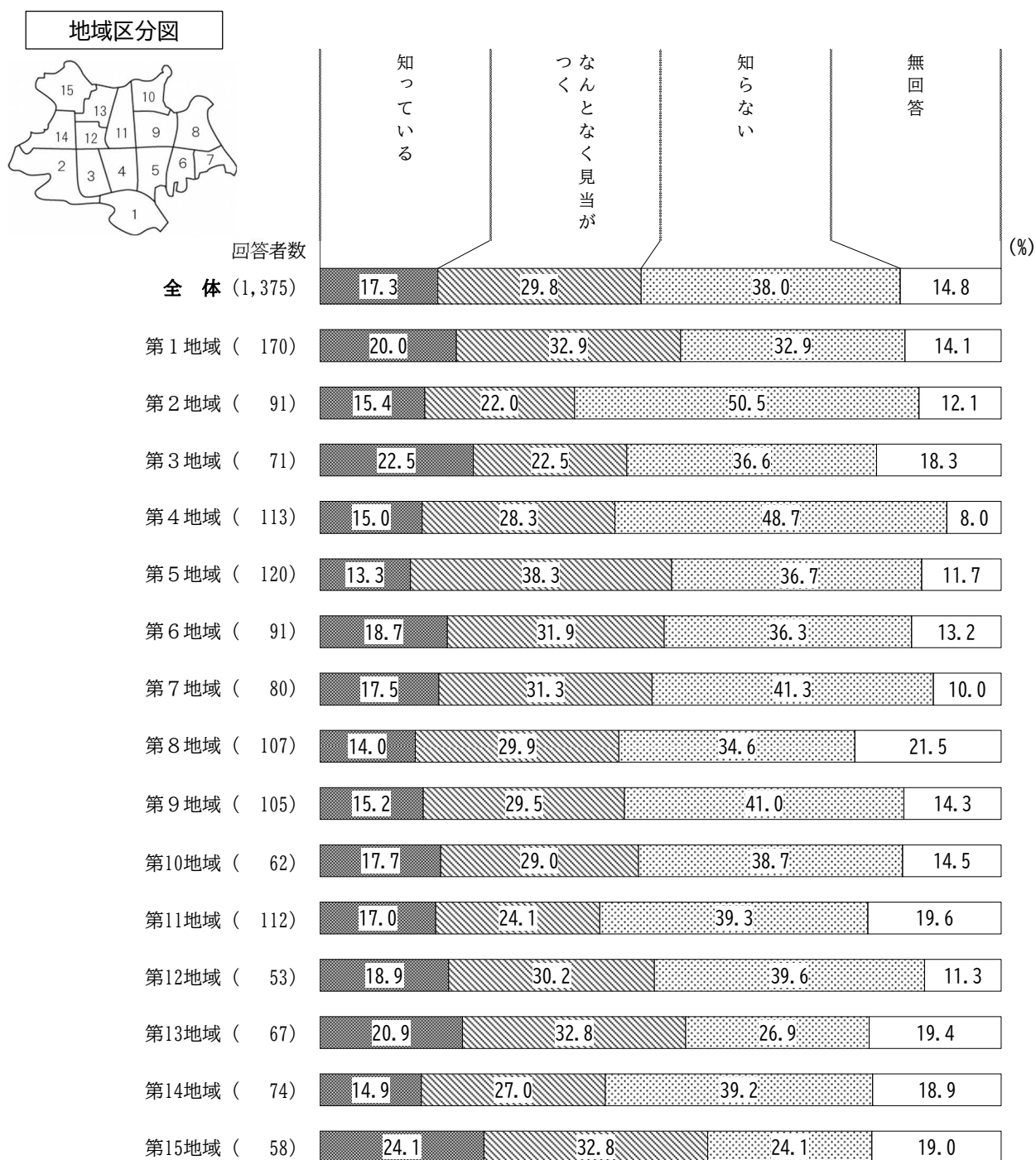
図2-4-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第15地域が24.1%で最も高く、次いで第3地域（22.5%）となっている。一方、第5地域が13.3%で最も低く、次いで第8地域（14.0%）となっている。

図2-4-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



(5) 大規模災害時の避難生活場所

問6 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

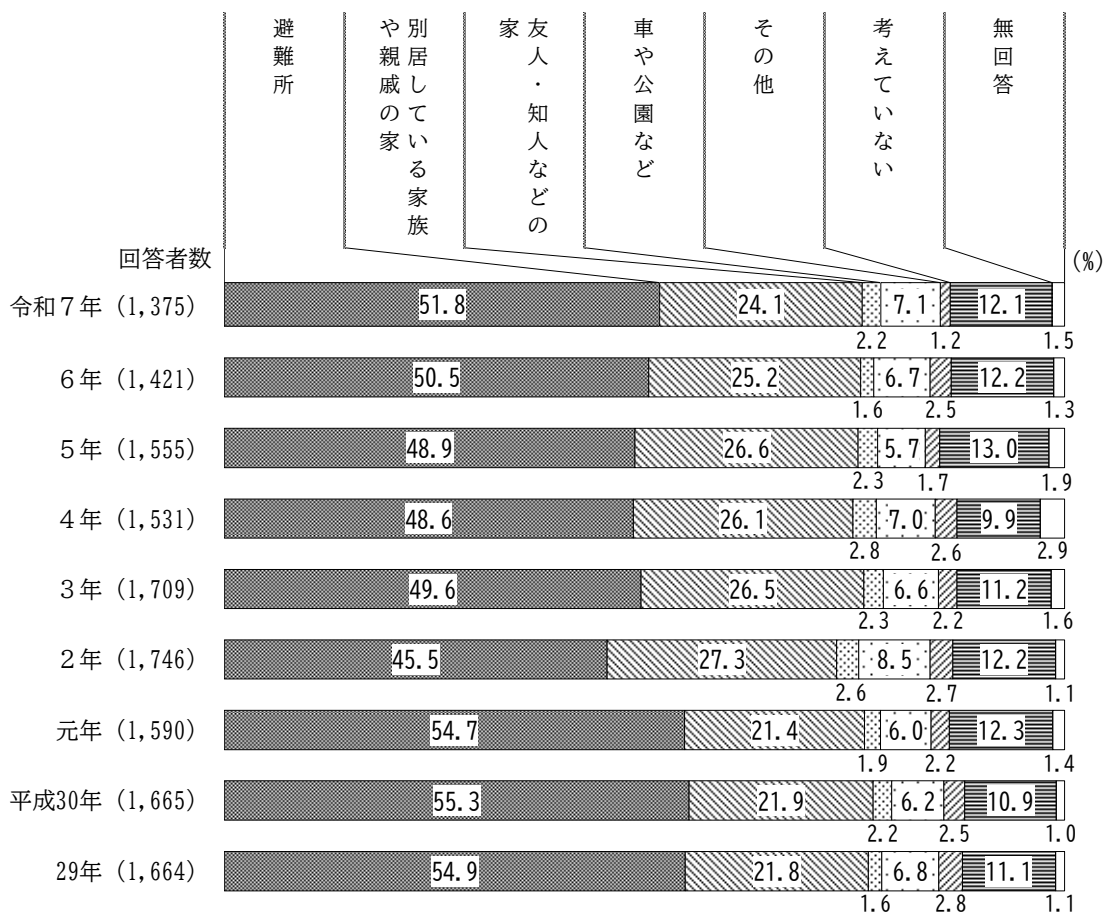
■「避難所」が5割超で最も高く、前年との大きな違いはないものの、この4年間では漸増傾向となっている

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が51.8%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(24.1%)となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図2-5-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第10地域（64.5%）が6割台半ばと特に高く、次いで第11地域（58.0%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第6地域（31.9%）、「車や公園など」は第13地域（16.4%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第15地域（19.0%）で最も高く、第3地域（4.2%）で最も低くなっている。

図2-5-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所

